

先達の教えから「共同」の意味するもの

1

飯田 清久

憲法破壊に邁進する安倍内閣。腹が立ってたまりません。「安倍政治は許さない」の声は全国にこだまして、自民党一強政治を打ち破るため市民団体・政党間での共同の輪が広がり、闘いの大きな力となっています。高知はもとより、介護生活の浜松のデパート前でも移動途中の岡山駅でも、集会・街頭宣伝にふれることができます。とても大切で頼もしい取り組みだと思います。もう30年くらい前のことです。「共同」とはいいたいというところが、飯田わがかりかよ。そう私に聞かれた人がいました。当時、労働戦線の再編真っ只中で、全国的には全教結成、県内では県労連結成に向けて各組織は激動の時期にありました。社会の変化に応じて、多様な組織や人々が大きな目標に向かって取り組んでいた時でした。氏曰く「単に力を合わせる協力レベルではない。共同とは、大きな共通の目標に向かってそれぞれが持ち味を発揮して力いっぱい頑張るとともに、それぞれの持つ不十分さを補うことに責任を持つこと」と熱く定義してくれました。私はそれ以来この定義を、教職員組合運動はもとより、学校づくりや障害者運動にかかわる際の自分なりの指針のひとつにしてきました。

私たちは、組織活動を行う上で役割分担をします。連携や役割分担は、自分の決められた任務を果たせば一応よしとなります。もし、誰かどこかがその任務や分担を果たせず目標が実現できなかったらどうするでしょう。「自分はやったのに・・・」との総括になるのでしょうか。多忙になるほど、他者への気配りができにくくなります。私は前述した共同の意味する、それぞれの不十分さを補い合う姿勢と努力に運動の興行きの深さとかきりないヒューマニズムを感じるのです。「地域・父母との共同による学校づくり」「安倍政治を許さない市民団体・政党による共同」、どれも大きく大切な

目標に向けて多様な人々や組織が頑張っています。さらにもっと身近な課題でも、共同の取り組みはあると思います。それぞれ抱える違いや弱さを問題視することなく支え合い補い合う関係の中で目標に迫っていく、大きく一致することでもさらに力が発揮されていく、とても人間的で温かい営みだと思えます。今日の情勢は、改憲を許さない！平和を守る！民主主義を取り戻す！国民的な共同の取り組みがあらためて求められています。そしてその一翼に私たちが高退協も力強く加わっていきたいものです。

勤評闘争当時20代で高教組書記長をされ、その後高知県学習協役員として労働者教育に尽力された叶岡 哲先生。酒を一滴も飲まず一晩中熱く語り教えてくれたことでした。*日々奮闘されている高退協事務局からの要請には応えねばとの思いからペンを執りました。あと2回ほどお付き合いください。

やんちゃ坊主の大阪維新

大南富

梅、桜、つつじ等華やかな春から、しっとり落ち着いた新緑の候となりました。日頃のご無沙汰恐縮しております。署名をお送りします。

大阪維新には本当に困っています。やんちゃ坊主のように手を焼いております。大阪都構想が駄目になったら、「カジノ」を持ち出してきま面的に支援し、共謀罪を通過させる原動力を担い手となって先頭に立って旗を振っています。憲法9条の追加項目についても同じでしょう。森友学園をはじめ、加計学園と次々に問題が発覚。しかも森友学園の最大の責任者は維新の松井知事。その追求をうまくかわしているから、本当許せない。アベもマツイも許せない。

ハシモトが今都知事のフォーラム塾の講師であることも油断ならない。etc. 問題の政治家が横行する度山原健二郎さんの雄姿が思い出されます。本場に立派な方だったと。沢山の「山原さん」が出現して欲しいものです。「だれもが幸せで健康で平和に生活できる」そんな世の中を願って、出来ることから頑張りますよ！

「高校現場は今」 病弱特別支援学校の 寄宿舎が盲学校の 寄宿舎の敷地内

盲学校 藤本真由美

高知県立盲学校は、県内唯一の視覚障害児・者の教育機関です。幼稚部、小学部、中学部、高等部（本科、専攻科）を設置しています。間もなく創立90周年を迎えるので、記念行事の準備も始まっています。

幼稚部、小学部、中学部、高等部普通科では、それぞれ幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準ずる教育を行っています。高等部保健療科では、高等学校普通教科及びあん摩・マッサージ・指圧に関する教科による教育を行っています。

政科療科では、鍼灸・あん摩・マッサージ・指圧に関する教科による教育を行っています。さらに、地域に向けたセンター的機能を充実させるために、相談学級「ひまわり教室」を開設（毎週水曜日の午前中）、視覚障害のある乳幼児の発達支援や保護者への養育や教

育に関する相談に応じています。また、小学校、中学校、高等学校で勉強している児童生徒の見え方の相談や教材・教具の工夫、配慮についての相談に応じています。盲学校の在籍児童生徒の年齢は幅広いし、実態も準ずる教育課程を取っていない人から、知的障害や肢体不自由などを併せ有する人、医療的ケアが必要な重度重複障害の子でもまで様々です。児童生徒それぞれに障害や課題に応じて工夫しながら、日々取り組んでいます。

通学が困難等の児童生徒のために寄宿舎（れいめい寮）があり、様々な年齢の児童生徒が家庭的な温かい雰囲気で集団生活を送っています。しかし、高知県教育委員会が出した「高知県立特別支援学校再編振興計画【第二次】」において、病弱特別支援学校の寄宿舎が盲学校の寄宿舎の敷地内に建築される案が出され、不安が広がっています。

盲学校内には、高知県地域福祉部障害保健福祉課と連携して、「ルミエールサロン」という視覚障害者向け機器展示室も設置されています。見えづらかったり、見えないことによる日常生活の不便さを解消するための、様々な機器や便利グッズを展示しています。予約をすれば、どなたでも見学できます。

2017年度 夏季学習会 ご案内

毎年、内容豊か、お待ちかねの夏季学習会を次の日程、演題で開催します。夏の暑い一日、頭とからだをリフレッシュしませんか。

日時 8月25日(金) 14:00 開会 高知城ホール2階会議室

今年は、「わが青春に悔いなし」「わが青春に悔いあり」というテーマでお二人の方に講演していただきます。ご期待ください。

14:00 ①宮川俊彦さん 社会科教員、氷室復活、土佐備長炭、障害者登山などいろいろな分野で活躍。
②阿崎昭平さん ドキュメントビデオで語る「高知城下の木に助けられて」

16:00 閉会(予定) *講演の詳しい内容は、同封のピラで
*終了後16:30から、暑気払いの「懇親会」を予定しています。講師を囲んで楽しく、交流をしませんか。会費5千円。出席をお知らせください。
係 田中正、松本 緑、池上 圓、橋元陽一